

恐怖のなぞが解けるとき 3分後にゾットするラスト

「呪い」の専門家は実在する？	持ち主は…	祖父の話	逆さま	ラップ音
109	101	93	85	77

あとがき	付録「背後霊」	砂浜	伝言	鎮め
143	137	129	121	113

後ろにいるよ

「呪い」とはなにか？	かわいい壁	兄の友だち	ふきげんの理由	後ろにいるよ
37	29	21	13	5

「呪い」の方法とその効果	ブランコ	わすれもの	グランドピアノ	ジャングルジム
73	65	57	49	41

後ろにいるよ



あなたには親友と呼べる友だちはいますか。  
遠くに離れてしまっても、ふと思い出すような存在。

そして、あなたのことをいつも気にかけていてくれるような友だちが・・・。  
九月に転校してから、二か月が過ぎた。

わたしは、まだ新しい学校に馴染めないでいた。

転校してきてから、ほぼ毎日、寂しさを紛らわすために、

前の学校でいっしょだった親友に電話していた。

彼女もわたしからの電話を待っていた。

二人でたわいもない話をするので気持ちが晴れた。

でも、ある日を境に彼女は電話に出なくなった。

「現在おかけになっている電話は、

電波の届かない場所にあるか、電源が入っていないため・・・」

何回電話をしても、メッセージが流れるだけだった。

SNSなども既読にならず、返信もなくなった。

「ほんとは迷惑だったのかもしれない」

そんなことを考えて、わたしの心は沈んでいた。

新しい学校でも、みんなと交流を持たなくてはいけないことはわかっていた。

ある日の放課後、帰り道が同じ方向の同級生に、勇気を出して声をかけた。

わたしの声に、振り向いた同級生は、驚いたように後ずさった。

その表情から、拒否されたように感じてしまったわたしは、逃げるように教室を飛び出した。

夕焼けが、遠くに見える山々の端を赤く染めていた。

とても寂しい気持ちになった。

家に帰る足どりも重い。